

『トントンずもうをしよう』 5歳児 1月 伏見こども園

いくよ。スタート



みんなで遊ぶの
楽しいね

土俵づくり

表彰台づくり



↑ 谷折り



↑ 山折り

進む方向

エピソード

共通経験でトントンずもうの人形をつくったことから、その後も遊びが続いています。Aちゃんはキツネ人形、Bちゃんは自分人形を道具箱の蓋の上で向かい合うようにのせて遊び始めました。「いくよ。スタート」のかけ声と同時にAちゃんは両手を交互に動かしながら道具箱の端を叩き、Bちゃん是人差し指で優しく叩きます。Aちゃん「ちょっとずつ動いている。箱の端に向かって進んでいる」と、ドキドキしながら叩いています。Bちゃん「私のは全然動かないね」、Aちゃん「優しく叩いているからじゃない」と、気付いたことを伝え合ったことからBちゃんは先程よりも少し強めに叩きましたが人形はほとんど動かず、Aちゃんの人形が先に道具箱の蓋から落ちました。Aちゃん「Bちゃんの人形強かったね」と、互いに面白さを感じていました。

そこへ、CちゃんやDくんも遊びに加わります。Aちゃん「場所が狭いから、広くしよう」と、道具箱の蓋を数個並べてつなげ、4人で遊びます。強く叩いたり、指先で叩いたりするなど、それぞれ工夫しながら叩いていると、Dくん「なんか後ろに進んでいる」と、人形の動きが友達と違うことに気づき、折り目を谷折り（絵の方）から山折りに変えてみることにしました。再び遊ぶと、Dくん「今度は前に進んだ」と、友達の人形に向かって進んで行く様子に嬉しそうにしていました。

その後も画用紙や空き箱を使って土俵や表彰台など、遊びに必要なものを考え、つくって遊ぶ姿が見られています。

保育者の思い

- ・人形の動きや叩き方の違いに気付く子どもの姿を大切に
見守ることで、新たな方法を考え、工夫して遊んでほしいと思いました。
- ・人形が増えるにつれて土俵を大きくした方がいいことを考え、自分達で遊びの場を整えている姿に感心しました。
- ・折り目に着目したところが面白いと感じ、折り目を変えることで人形の動きがどう変わるか興味をもちながら、保育者も一緒に見て知るようにしました。

子どもの育ちや学び

- 人形が前に進むように、両手を交互に動かして道具箱の端を叩く、人差し指で優しく叩くなど、叩き方や叩く場所、強さを工夫しながら遊んでいます。
- 人形の動きの違いに気付いたり、どうしてそのような動き方をするのか考え、新たな方法を見つけたりしています。
- 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わったことで、土俵を大きくしたり、道具箱の蓋を数個並べたりするとみんなで遊べると考え、つくっています。
- 人形が後ろに進むことに気付いたことから、前に進んでほしいという思いをもつようになり、谷折りから山折りに折り目を変えています。
- みんなで遊びたいという思いや、テレビで見た経験から土俵や表彰台など、遊びに必要なものを考えてつくっています。（社会とのつながり）

家庭だったら・・

トントンずもうの遊びが続く中で、人形の動きの違いに気付いたり、イメージしたように人形が動くよう、工夫したりして遊んでいます。遊びが続くにつれて、子ども達の思いや学びも大きくなっているように感じます。今後も子どもの遊びを楽しむ姿を大切にしていきたいですね。